



記 入 日 2018年 1月 15日

1. 概 要

実践団体名	防災ジュニアリーダープロジェクトチーム		
連絡先	荒川区立尾久西小学校長 末永寿宣 03-3893-8890		
プランタイトル	防災ジュニアリーダーの育成 ～自分の身は自分で守る人へ／助けられる人から助ける人へ～		
プランの対象者※1	小学校（高学年）	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

<目的> 1 知識、思考・判断の育成 2 危険予測・主体的な行動の育成
3 社会貢献、支援者としての意識の育成

<ポイント>

- 教育課程の範囲内で実施できるクラブ活動の中で、どの学校でも取り組む。
- 自助・共助の意識と思いやりの心を育むことにより、思春期におけるいじめ防止等の健全育成に取り組む。

【プランの概要】

- 地域防災の中心的な担い手である防災区民組織の高齢化、平日の日中に震災が発生した場合には、若い人たちが地域にいないという問題があり、新たな防災の担い手として中学生を地域の防災・減災活動に貢献できる防災ジュニアリーダーとして育成する必要がある。
- 小学生の早い段階で、防災意識の醸成が必要であると考え、今年度4月に特別活動「クラブ活動」として、中学校防災部の弟分である「ジュニア防災クラブ」を創設し、活動を開始したところである。しかし、本校が一次避難所及びトリアージポストに指定されているが、地域町会が中心となっている「避難所運営委員会」では、行政任せの雰囲気があり、「行政にやってもらう」という雰囲気をどうしても払拭できていない。
そこで、地域の防災意識を向上させるために、児童と一緒に活動することで地域住民の防災意識の向上を図りたいと考えた。
- 小学校クラブ活動における防災教育活動プログラムを作成する。
・区内小学校が今後取り組む際の参考となる具体的な活動計画及び活動事例集を作成する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 特別活動「クラブ活動」の中で、防災プログラムを開発することにより、どの学校でも防災教育について、手軽に取り組むことができる。
- 学校が「一次避難場所」及び「トリアージポスト」に指定されていることから、地域住民が主体となって、自分たちの身は自分たちで守るという意識を小学校高学年から高めることができる。
- 「自分の身は自分で守る人へ／助けられる人から助ける人へ」という自助・共助の意識と思いやりの心を育むことにより、思春期におけるいじめ防止等の健全育成に効果が期待できるとともに、将来、地域における防災リーダーや消防団員を志す人材の育成が図れる。

2. プランの年間活動記録 (2017 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	4月24日(月) ガイダンス	○組織編成名簿作成	○組織作り ・役員選出 ・班編成 ○防災検定の説明
5月	5月12日(金) 消火搬送訓練	○尾久消防署・地域消 防団と連携	○尾久消防署の方による、消火器の 取り扱い説明及び放水訓練 ○毛布を活用したダミーの搬送訓練
6月	6月5日(月) 安心安全ガスの 防災	○東京ガス㈱と連携	○発災時のガスの取り扱い ○ガスメーターを復帰させる方法 ○ガスの匂いクイズ
7月	7月7日(金) 火起こし体験	○NPO 法人 プラスアーツと連携	○木を擦り合わせて火種をつくり、 火をおこすまでのタイムを競う
8月			
9月	9月22日(金) AED操作訓練①	○尾久消防署・地域消 防団と連携	○心臓マッサージの訓練及びAED 操作の訓練
10月	10月20日(金) 応急手当ワーク ショップ	○NPO 法人 プラスアーツと連携	○身近なものを使った応急手当を正 しく実践できるかクイズ形式で確 認する
11月	11月17日(金) 突撃リアカー隊 体験	○尾久消防署・地域消 防団と連携	○あらかわ遊園内において、消防署 の方と一緒に消火訓練を呼びかけ、 来場者と一緒に訓練する
12月	12月18日(月) 防災カードゲーム 「なまずの学校」	○NPO 法人 プラスアーツと連携	○地震の際に発生する様々なトラブ ルを紙芝居形式で出題し、今ある もので工夫して解決する方法を身 につける
1月	1月26日(金) ジャッキアップ ゲーム	○NPO 法人 プラスアーツと連携	○ジャッキの使い方をしっかり説明 した後、押しつぶされているカエ ル人形を救出する訓練
2月	2月16日(金) 紙食 器づくり チャレンジ	○NPO 法人 プラスアーツと連携	○紙食器を折るスピードと、難しい 紙食器を折ることができるか挑戦 してポイントを競う
3月	3月4日(日) ファイヤーフェスティバル 3月5日(月) AED操作訓練②	○尾久消防署・地域消 防団と連携	○防災訓練参加 ○グループによる「操作初級」試験

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： _____】 ※3

タイトル	安心安全ガスの防災
実施月日（曜日）	6月5日（月）
実施場所	尾久西小学校学習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：外部講師 氏 名： 所属・役職等：東京ガス株式会社
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	7 学校内クラブ活動 / 1 1 出前授業 / 1 3 体験学習
活動目的※5	5 災害を疑似体験 / 6 防災に関する知識を深める
達成目標	全員がガス漏れについての知識を習得する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・地震時の「都市ガス」についての対応 ・実際に震度5程度以上の揺れを感じて停止するガスメーターの復帰方法を知る。 ・臭いシートでガスの臭い体験をする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスメーターの模型 ・臭いシート ・学習プレゼンテーション
参加人数	27名
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震時の遮断されたガスの元栓の復帰方法を知った。 ・ガスにはあえて、特有の臭いをつけていることを知った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
成果物	・ジュニア防災クラブ活動レポート（東京ガス作成）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	東京消防庁「救命入門コース」
実施月日（曜日）	9月22日（金）
実施場所	尾久西小学校学習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 外部講師 氏 名：消防署員 所属・役職等：東京消防尾久消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	7 学校内クラブ活動 / 1 1 出前授業 / 1 3 体験学習
活動目的※5	4 災害を想定した訓練 / 7 技術を身に付ける
達成目標	全員が修了証を授与される
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸や胸骨圧迫、AEDの操作など、救命救助の流れを体験 ・一日目は練習訓練、二日目は検定形式で実施 ・受講後、修了認定書を授与
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ダミー人形3体 ・AED3機
参加人数	27名
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命入門コースを受講 ・修了認定書により達成感に繋がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習を含め、2回分実施する必要がある。
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ・修了認定書

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】※3

タイトル	突撃リヤカー隊体験
実施月日（曜日）	11月17日（金）
実施場所	あらかわ遊園地
担当者または講師	担当者・講師等の区分：外部講師 氏 名：消防署員 所属・役職等：東京消防庁尾久消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	7 学校内クラブ活動 / 1 3 体験学習 / 1 6 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練 / 8 防災意識を高める
達成目標	区民に防災訓練を体験させる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・火災時の対応訓練（消火器など）、ケガ、急病時の対応訓練（AEDなど）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・消防署員 ・専用リヤカー、消火器、AED ・呼びかけ用ハンド拡声器
参加人数	27名
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	【成果】 ・区民との交流が図れた。 ・教える立場として、防災訓練を実施できた。 【課題】 ・特にない。
成果物	特記事項なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><苦勞した点> ○担当教員の負担を軽減するため、プログラムを立案し調整した。 ○児童の実態や地域の要望を実現するため、荒川区の施策と関連付けた。</p> <p><工夫した点> ○小学生の早い段階で、防災意識の醸成が必要であると考え、今年度4月に特別活動「クラブ活動」として、中学校防災部の弟分である「ジュニア防災クラブ」を創設し、活動を開始した。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><苦勞した点> ○外部関係機関とのプログラムの調整に時間がかかった。</p> <p><工夫した点> ○外部関係機関のゲストティーチャーに全面協力いただいたことが、運営上大変ありがたかった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><苦勞した点> ○プログラムごとの活動の場を設定した。</p> <p><工夫した点> ○消防署や消防団等の関係機関の方々と接することで、児童が防災に関する知識や技術を学び、地域の防災・減災活動に貢献し、「自分の身は自分で守る人へ」「助けられる人から助ける人へ」という自助・共助における防災リーダーや消防団員を志す人材を育成する道筋を作ることができた。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	○荒川区立中学校 10 校の防災部 ○荒川区教育委員会指導室 ○荒川区区民生活部防災課 ○荒川区尾久地区委員会	・区主催防災訓練及び防災イベント参加時、中学校防災部と連携しブースを運営した。
保護者・ PTAの組織	荒川区立尾久西小学校PTA役員会	「突撃リヤカー隊」体験の際に地域町会と連絡調整をした。
地域組織	○西尾久三丁目宮元町会 ○西尾久中町会 ○西尾久四丁目町会 ○西尾久四丁目自治会 ○西尾久五丁目町会 ○西尾久六丁目町会 ○西尾久七丁目町会 ○田端スカイハイツ自治会 ○ニュー田端スカイハイツ自治町会 ○尾久西小避難所運営委員会	・防災訓練 ・避難所マニュアル制作
国・地方公共団体・ 公共施設	○東京消防庁尾久消防署 ○荒川区教育委員会事務局指導室 ○荒川区区民生活部防災課防災事業係 ○荒川区立あらかわ遊園	・救命入門コース受講 ・ジュニア防災クラブ予算支援 ・突撃リヤカー隊受け入れ協力
企業・ 産業関連の組合等	○東京ガス株式会社ライフバル荒川	・出前授業
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	○NPO 法人プラスアーツ	・出前授業
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	○学校安全教育研究所事務局長	・防災教育全般についてのアドバイス

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>○消防署や消防団等の関係機関の方々と接することで、児童が防災に関する知識や技術を学び、地域の防災・減災活動に貢献し、「自分の身は自分で守る」「助けられる人から助ける人へ」という自助・共助における防災リーダーや消防団員を志す人材を育成する道筋ができた。</p> <p>○課外活動とせず、特別活動「クラブ活動」として位置付けることにより、どの学校でも取組が可能となる。今後本校の取組が他校でも広まることを期待できる。</p> <p>○クラブ顧問の校務軽減の観点から、予め活動内容を具体的に設定しておき、その中から児童に選択させ計画し、どの教員でも担当できるようなシステムの構築ができた。</p> <p>○指導技術の維持のために、外部指導者を導入することで、担当教員の負担を軽減に繋げた。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>・報告書の提出が1月中旬であることから、3学期の活動が完了していないため、未実施部分の報告が十分でなかった。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>○次年度は創部3年目を迎える。クラブに所属していない児童の対応については、「兼部制」とし、休日等のイベント参加を全校児童に促していきたい。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

- 防災教育チャレンジプランに参加させていただき、感謝申し上げます。
- 保護者、地域の方々から応援の声が多数届き、学校運営にとっても大変有意義でした。
- 防災教育をイベントに終わらせることなく、教科指導として位置付けていく必要を強く感じました。
- 小学校段階における防災教育の目標は、防災意識を高め、周りの命を救うこと、命の大切さ、思いやる心を育てることです。毎月の防災訓練を実施するとともに、防災教育を教科学習として位置づけていくよう計画していきます。
- 本校では、今年度、総合的な学習の時間において、防災教育を実践しています。地域で予想される地震や火災などだけでなく、災害の総合的な基礎知識を身につけるのが目標です。荒川区では想定されていなくても、子供たちは、将来旅行をしたり、引っ越しをしたりして、大雪の降る地域や、火山のある地域を訪れたりするでしょう。そこに住むことになるかもしれません。どこにいても、災害時に適切に対応するための基礎を小学校で学ぶことの意義は、大きいです。
- どの学校でも導入できるようなシンプルなプログラムを実践することにより、この取組が他校にも広がってほしいです。
- 日頃から児童が特定の地域住民と顔なじみになる機会を設けることにより、日常的に防災意識を高めていき、災害時には地域の力になることを目標としていきます。

(自由記述: 1/3)



A large, empty rectangular box with a thick blue border, occupying most of the page. This area is intended for free-text input.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)